



# IXIL バックチェック機構付 ドアクローザ(角度制限付) 取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しく下さい。

## ■取付けされる方へのお願い

- このドアクローザは、室内側に取付けます。
- 本説明書は、外観右吊元用で説明してあります。左吊元の場合も、同じ要領で取付けてください。
- 本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲注意** …取付けを誤った場合、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

## ▲注意

- ドアクローザの落下・故障のおそれがありますので、下記事項をお守りください。
  - ・各種取付けねじは、 $3.0N \cdot m \{30kgf \cdot cm\}$  以上のトルクで必ず締付けてください。
  - ・各種取付けねじは、付属のねじを所定個所に使用してください。
  - ・固着剤付きのねじは、2度締めしたり、水に触れたものは使用しないでください。
- 各速度調整ねじは、左へ1回転以上回転させないでください。ねじをゆるめすぎるとドアが急激に閉まり、思わぬケガをするおそれがあります。

## ■部品一覧表

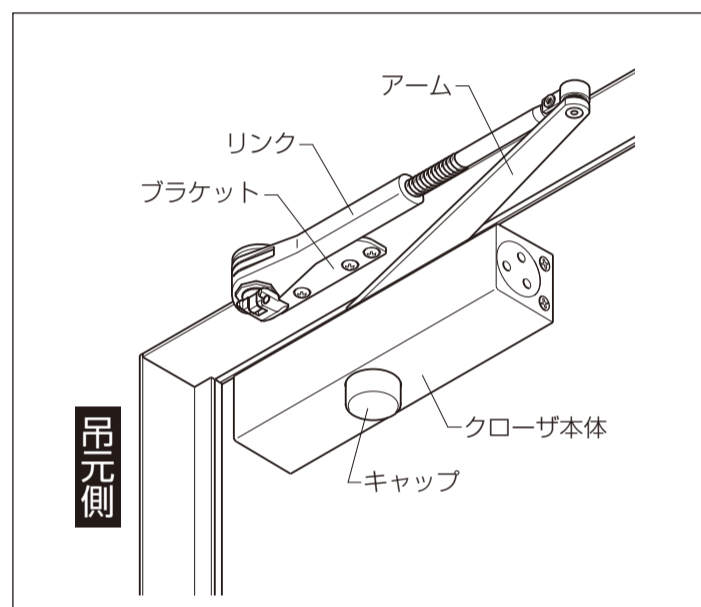
本体	アーム	本体ブラケット	ブラケットリンク	キャップ	アーム止めねじ
					 (2本)

※アーム形状が異なる場合もあります。

## ■ねじ一覧表

記号	イ	ロ	ハ
姿図			
	本体ブラケット 取付けねじ	ブラケット 取付けねじ	本体固定ねじ
	丸皿小ねじM5×12 (固着剤付き)	丸皿小ねじM5×16 (固着剤付き)	丸皿小ねじM5×12 (固着剤付き)
入数	4	4	2

## ■各部名称

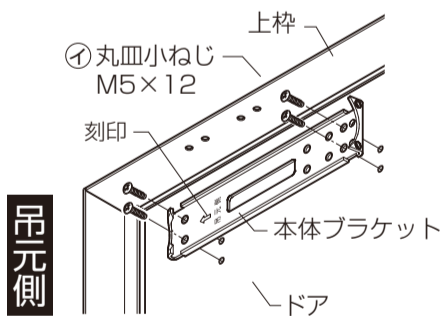
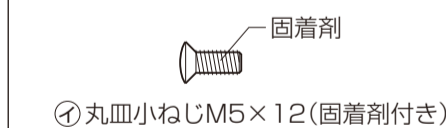


## ■取付け順序

### 1 本体ブラケットの取付け

●本体ブラケットの刻印(↔)を上枠側に、ドアに、しっかりと取付けます。

#### ■本体ブラケット止めねじ

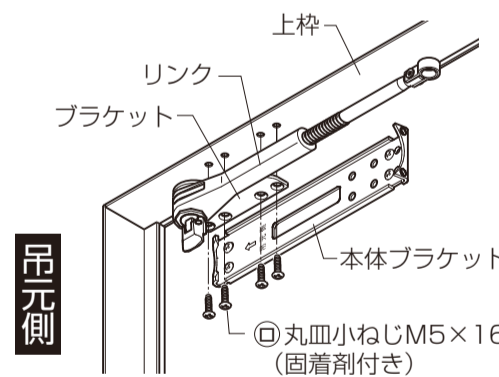


### 2 ブラケットの取付け

●ブラケットを上枠に、しっかりと取付けます。

**お願い**  
※ブラケットねじ固定後にもう一度ねじを締め込み緩みがないうことを確認してください。

#### ■ブラケット止めねじ

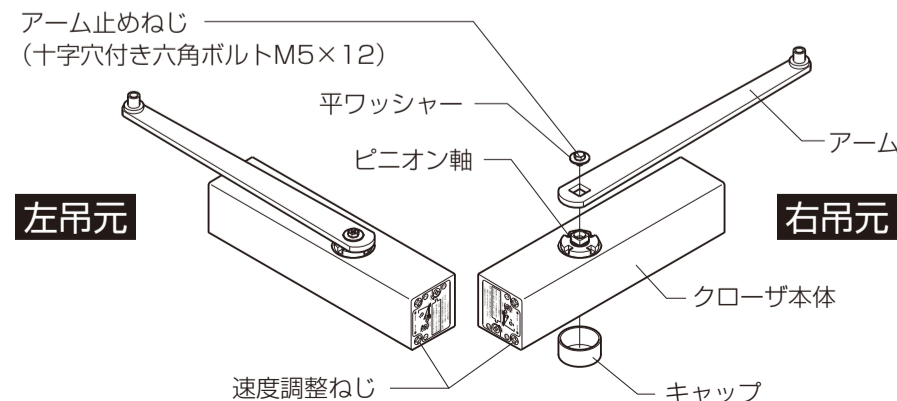


**お願い**  
※ブラケット止めねじは必ず締付けてください。ブラケット止めねじの締付けがゆるいと、ブラケットリンクがぐらつき落下・故障の原因になります。

### 3 アームの取付け

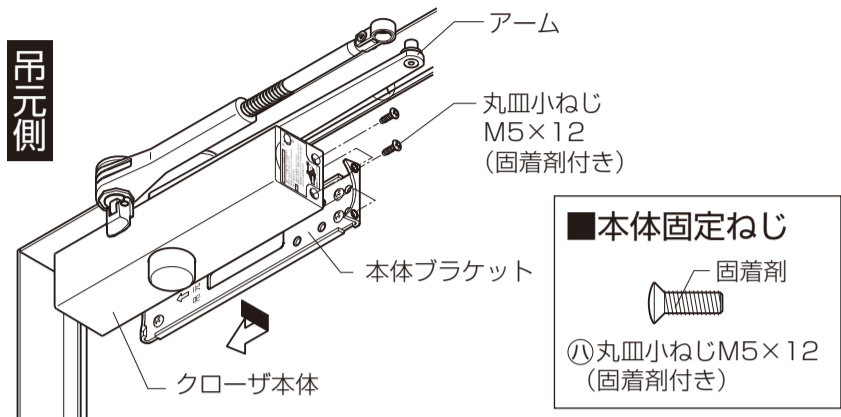
- クローザ本体の速度調整ねじを上枠側に向けます。
- ピニオン軸にアームを右図の向きではめ、アーム止めねじを、しっかりと締付けます。
- キャップを下から取付けます。

**お願い**  
※アームはめ込み時、ハンマーなどでたたかないでください。たたくと破損や油漏れの原因になります。  
※ピニオン軸にアームを図の向きではめこみアーム取付けボルトを規定のトルクで締め付けます。  
※取付けねじの締付けがゆるいと、アームが外れ故障の原因になります。



#### 4 クローザ本体の取付け

- クローザ本体の速度調整ねじを吊元側に向けます。
- クローザ本体を下図のようにスライドさせて、本体ブラケットにはめ合わせます。
- 戸先側から、しっかりと固定します。

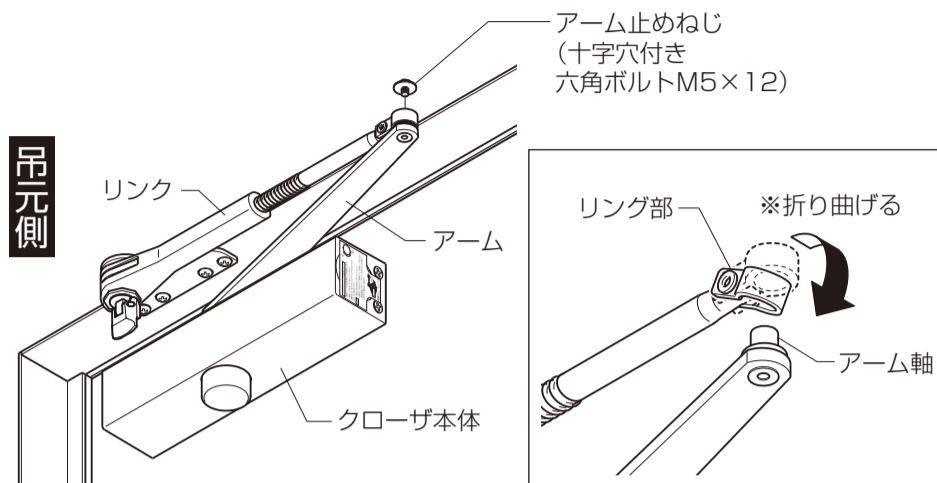


#### ▲ 注意

- 本体固定ねじは必ず締付けてください。本体固定ねじの締付けがゆるいと、本体がぐらつき落下・故障のおそれがあります。

#### 5 アームの連結

- リンク先端の穴にアーム先端のピンを差込み、アーム止めねじを、しっかりと締付けます。
- ※ アームとリンクが連結しづらい場合はリンク先端のリング部を折り曲げてアーム軸側に差し込みながらはめ込んでください。



- お願い
- ※ アーム止めねじは必ず締付けてください。アーム止めねじの締付けがゆるいと、アームの連結が外れ故障の原因になります。

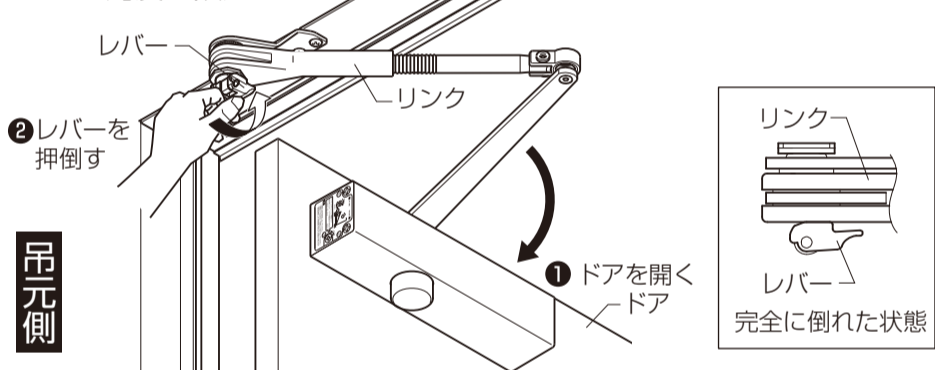
#### ■ ストップ位置の設定

##### 1 ストップ角度の設定

- ドアをストップさせたい角度まで開いてください。
- 開いた位置でレバーを手で完全に押し倒してください。レバーが完全に押し倒せない場合はドアを前後にゆすりながら押し倒してください。

- お願い
- ※ レバーを倒すとき、ハンマーなどでたたかないでください。たたくとストップ装置の故障の原因になります。

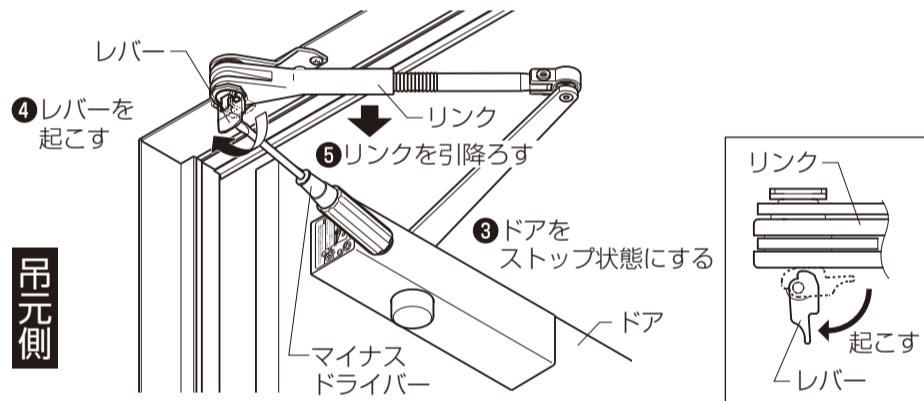
##### <ストップ角度の設定>



##### 2 ストップ角度を変更（再設定）する場合

- ドアを開きストップ状態にしてください。
- 手またはマイナスドライバーでレバーを起こしてください。
- ドアを開く方向に押しながら、リンクの↓部をいっばいに引降ろすとストップ機構が解除され設定前の状態に戻ります。
- 再度手順①～②にしたがってストップ角度の設定を行ってください。

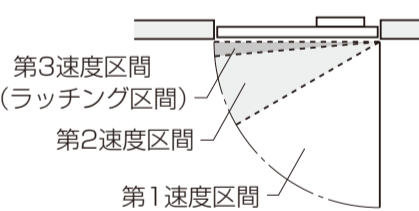
##### <ストップ角度を変更する場合>



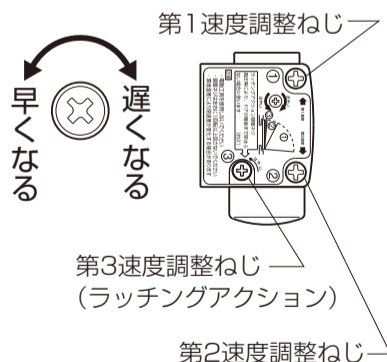
#### ■ ドア（扉）閉じ速度の調整

##### 1 閉じ速度の調整

- 閉じ速度は、第1速度区間および第2速度区間、それぞれ個別の調整ねじで行います。
- 速度調整ねじを左右いずれかに回転させます。適正速度は、ドアの閉じ始めから閉じ終わりまで5～8秒位です。



##### ■ 速度調整ねじ



- お願い
- ※ 調整ねじは、電動工具を使用して回転させないでください。調整ねじが破損する原因となります。
  - ※ 調整ねじは、遅くなる方から早くなる方へ調整してください。
  - ※ 調整ねじは、左へ1回転以上回転させないでください。油漏れを起こし、正常に機能しなくなる原因となります。

##### 2 ラッチングアクションの調整

- ※ ラッチングアクションは、ドアが閉鎖位置直前（約3°）まで来た時点でドアを素早く閉める機能です。風が強くドアが閉まりきらない場合などに使用します。

- 調整ねじを左へ回転すると、素早くドアが閉まります。

#### ▲ 注意

- 各速度調整ねじは、左へ1回転以上回転させないでください。ねじをゆるめすぎるとドアが急激に閉まり、思わぬケガをするおそれがあります。

#### ■ バックチェック強さの調整

- 強風などでドアが急激に開くのを緩和するため、バックチェック機構が付いています。開扉時、約80°からバックチェック機能がはたらき、ドアを開くのが重くなります。
- 吊元側と反対側の側面にある調整ねじを、回転させて調整してください。右に回すとドアを開くのが重くなります。左に回すと軽くなります。

- お願い
- ※ バックチェック調整ねじは、電動工具を使用して回転させないでください。バックチェック調整ねじが破損する原因となります。
  - ※ バックチェック調整ねじは、左右に1回転以上回転させないでください。重くなる方向に1回以上回してバックチェックを繰返し使用すると、ドア本体・枠に力が加わり製品に変形がおきる場合があります。軽くなる方向に1回転以上回すと油漏れを起し、正常に機能しなくなる原因となります。

